

# 1

## 登下校の見守りとあいさつ運動

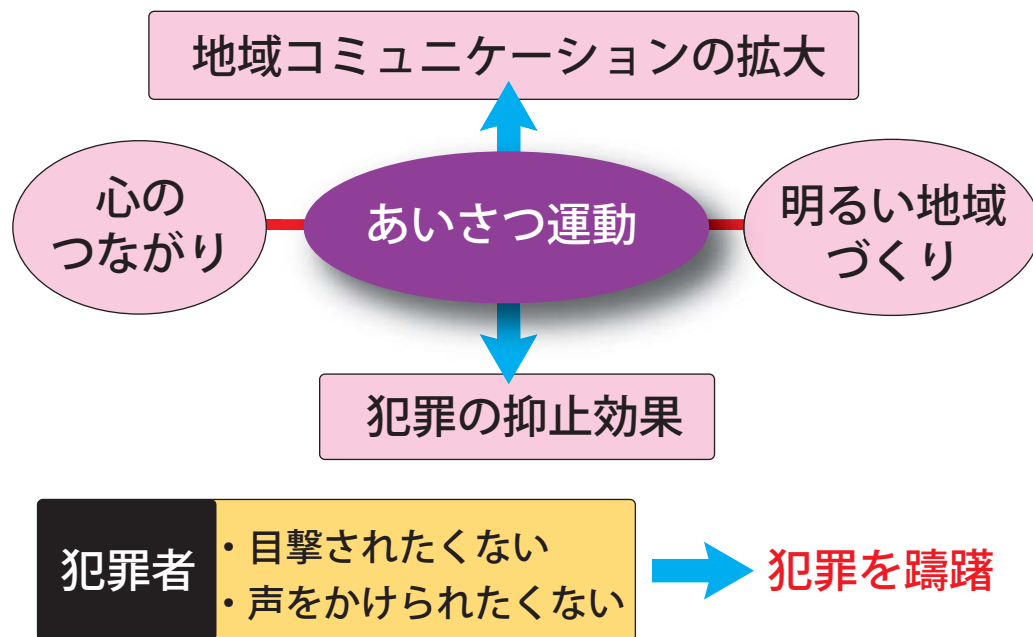
### 登下校時の見守り

地域社会では、出会った人にあいさつを励行することで、登下校する児童や生徒たちを見守ることができるばかりではなく、地域の連携を強め、犯罪抑止力も高めることができます。



犯罪を企てようとする者は、あいさつや声かけで目撃されることを嫌がり、犯罪を躊躇すると言われています。地域でのあいさつ運動は、身近な犯罪を防ぐ上で大きな力となります。

子どもたちの登下校時に家の周りの掃除や草花の手入れをしながら「おはよう」「おかえり」と声をかけるのも、小さな見守りです。防犯パトロール中に出会った人へあいさつをすることは、地域活動のPRになるだけでなく、地域住民の防犯意識の向上にもつながります。また、既に活動しているグループと情報を交換することによって、より効果的な活動を展開することもできます。



「あいさつ運動の日」を設定して地域で活動

規準表〈51a〉 活動を地域全体に広げ、意識を持続させることができる。

〈42b〉 校外での安全管理の取り組みについて問題点を把握し、その改善策を企画・実行できる。

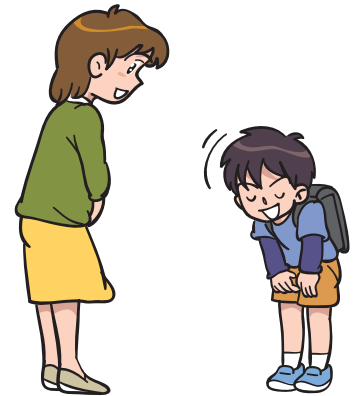
ねらい □□ ②あいさつ運動や地域巡回活動などへの保護者の協力依頼ができる。

□□ ①あいさつ運動を実施することで期待できる効果について説明できる。



## あいさつ運動の進め方

家庭で、学校で、地域社会で、人に会ったら、人と接したら、必ずあいさつをします。あいさつをされたら必ず応えましょう。子どもたちの元気なあいさつをほめてあげましょう。あいさつは、明るく安心な地域社会をつくれます。社会の変革は、一人ひとりの小さな実践から始まります。広報誌や回覧板、学校だよりなどを通して繰り返し啓発活動を行ったり、「あいさつ運動の日」やあいさつ週間・月間などを設け意識を向上させることが大切です。



また、住民一人ひとりが体育祭やレクリエーションなどの地域活動に積極的に参加することで、顔見知りが増え、あいさつがしやすくなるという環境も整います。

### ■子どもへ声をかけるときの留意点

- ・最初は少しはなれて（子どもの身長以上）。
- ・顔と名前を覚えて、数回目には名前を呼んで声をかけてあげる。
- ・子どもの目を見て、やさしく。
- ・勉強のことは控えめに、どんな遊びをしているかなど。
- ・顔見知りになった子どもには、肩を軽くたたいてあげるなどのスキンシップも。

### —ビデオ資料—（関連ビデオ→ あいさつ運動、あいさつ運動の効果）

※事例を参考に、あいさつ運動のポイントをまとめましょう。

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

### Column

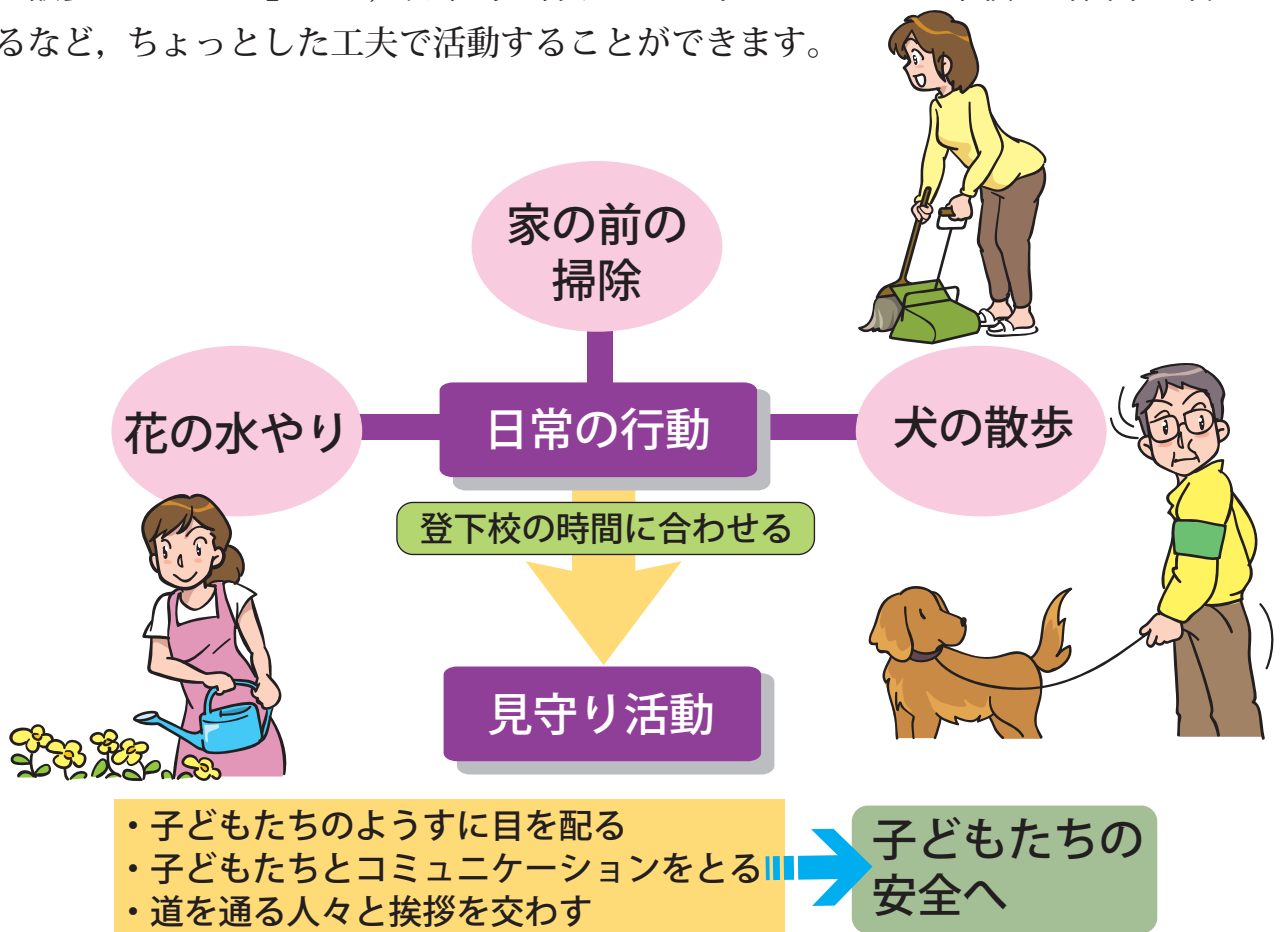
地域での共通理解のもとでの適切なあいさつ運動は、コミュニケーションの拡大や安全な地域づくりに有効です。しかし、顔見知りの方が罪を犯す事例などもあり、場合によっては弊害を招くこともあります。子どもたちの適確な判断能力も必要です。

# 登下校時の見守り活動とポイント

## 見守り活動の方法

地域の環境・特性を考慮して、地域ぐるみで子どもを守るという意識を高め、「見守り活動」の参加者一人ひとりが協力者から参画者になっていただけるような「見守り活動」を展開していきましょう。

見守り活動は、ある一定時間、同一場所にとどまる（立っている）などして、登校（下校）してくる子どもたちを見守るというものです。パトロールと違い、自宅前の路上で立っているだけでも立派な「見守り活動」といえるので、体力に自信のない方や高齢の方にもお勧めです。また、「掃除をしながら」とか「花に水をやりながら」とか「犬の散歩をしながら」など、日常的に行うことを子どもたちの登下校の時間帯に合わせるなど、ちょっとした工夫で活動することができます。



日常生活の中で参加できる見守り活動を

規準表〈24a〉 登下校時などの子どもの安全に関する活動の効果と実施方法について指導できる。

- ねらい  ①登下校時に注意するポイントについて具体的な指導ができる。  
 ②登下校時の見守り活動が必要な箇所を把握している。

## 見守り活動のポイント

### ①できるだけ毎日続ける

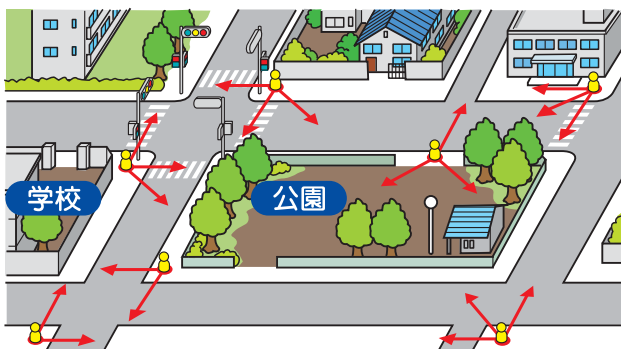
毎日同じ場所で見守り活動を行うことにより、登下校してくる子ども達とも顔見知りになります。いつもと様子の違う子や、いつもの時間になっても登下校しない子どもなど、子どもの異常にいち早く気付くことができます。また、子ども達に見守り活動をしている姿を見せることで、「守られている」という安心感を与えることができます。

### ②人目の届かないところで、時には場所を変えて

できれば、子ども達の通学路で人通りの少ない道路や路地で見守ってあげましょう。また、時には1ブロック隣の路地に立つなど場所を固定せずに見守ることで、場所に隙ができず、効果的な活動を行うことができます。

### ③バランスの良い配置を

「見守り活動」を行う場合は、できるだけ配置場所に偏りがないようにしましょう。ボランティアの皆さんで話し合ったり、学校で配置場所の見直しを行うなどして、バランスの良い配置ができるようにしてください。



▲どの通りも見通せるところに配置



## 見守り活動の注意点

### ●見守り活動とわかるように

ただ自宅前に立っていたり、路地や交差点に立っているだけでは、子どもたちも警戒し、かえって不審者と思われかねません。服装や腕章、帽子などで「見守り活動」を行っていることをアピールし、積極的に子どもに声をかけてあげましょう。

## 通学路での安全

警察庁の統計によると、子どもの略取・誘拐の発生時刻で最も多いのが「15～18時」、発生場所は「その他道路上（通学路などで、学校付近以外の道路上）」です。つまり下校時は子どもが最も犯罪に遭いやすい場面だといえます。通学路の危険から子どもを守るためにはどうすればよいのでしょうか。

毎日使う通学路こそ、最も安全性を高くしたい場所です。決められている通学路だからすべて安心というわけではありません。角に家が建った、通過車両が増えたなど環境が変わり安全から危険に変わる場所もあります。実際に歩いてみて、危険を見逃さないように通学路をチェックし、注意すべき場所を子どもに教えます。

登下校で最も基本的なことは、必ず二人以上の複数で登下校することです。特に下校は注意が必要です。同じ学校に通う近所の家族や地域で話し合い、交代で付き添うなどして、複数での登下校を徹底させましょう。



▲子どもの略取・誘拐の発生が最も多い時刻

近所の友だちと  
二人以上での登下校

通学路の危険箇所を  
大人たちでチェック

 **ビデオ教材** (ビデオ→ 登下校の見守りとあいさつ運動)

※見守り活動とあいさつ運動のポイントについてまとめてみましょう。

-----

-----

-----

-----

-----

-----

- 規準表 <24a> 登下校時などの子どもの安全に関する活動の効果と実施方法について指導できる。  
 <21b> 防犯のポイントについて、地域住民や子どもたちに説明することができる。  
 <23a> 家庭で行う防犯対策の方法を理解している。
- ねらい   ③通学路やスクールゾーンにおける危険箇所を把握し、点検できる。  
  ①子どもが被害者となる犯罪が発生しやすい時間帯を知っている。  
  ③「いかのおすし」などの標語について説明できる。  
  ④子どもが家に入る際の注意点を指導できる。

## 一人になったら

自宅の手前では一人になってしまいます。一人で家に入る時は、カギは人に見せないようにしてドアの前で出し、付近に不審な人がいないかを確認してカギをあけ、家の人不在でも大きな声で「ただいま」と言って入るように教えてください。オートロックマンションでは、入口の周囲に不審な人がいないかを確認して部屋の番号を押すように教えてください。また、エレベーターに乗るときは、一人または知った人と乗るようにし、どうしても他の人と乗るときは、ボタンの側に立つように教えてください。(→ p.25)

登下校時に知らない人に声をかけられたら、被害に遭わないように次の行動をとるように指導することも一つの方法です。

覚え言葉「**イカのおすし**」＝警視庁考案

**イカ**＝行かない（知らない人について行かない）

**の**＝乗らない（知らない人の車に乗らない）

**お**＝大声をあげる（「助けて！」と大声をあげる）

**す**＝すぐに逃げる

**し**＝知らせる（周囲の大人に知らせる）

### ■「イカのおすし」について

Web で調べてみよう：

<http://www.naash.go.jp/branch/tokyo/rensai/rensaiikanoosushi.html>

-----  
 -----

### Column

地域の環境によって通学路での危険な場所は少しずつ違いがあります。自分の地域ではどのようなところに注意すべきか、どのようなところが危険か、実際に通学路を歩き、話し合ってみるとよいでしょう。

また子どもの目線と大人の目線では、見え方や見えるものが違います。地域の学校と協力し、子どもたちと一緒に歩きながら通学路を点検する機会を設けるとよいでしょう。